

V

昭和五十年代

石油ショックから経済大国への道

五十年代は二つの石油ショックに震撼させられた。

第一次石油ショック（昭和四十八年）による打撃は五十年代まで尾を引き、企業は、人、物、カネの節減を目指す減量経営に努め、狂乱物価と物不足は国民生活を圧迫し、国民は耐久消費財の買い控えなどで生活防衛に取り組んだ結果、五十二年には安定成長へのランディングとなつた。

ところが、昭和五十四年、第二次石油ショックに見舞われる。しかし、第一次石油ショックの経験を生かし前回ほどの混乱にはならなかつた。
消費生活は「三種の神器」や「3C時代」という生活向上の目標から、「反公害」「反工業」「自然回帰」「健康志向」「節約志向」へと向いていった。

この様に、わが国経済は二度にわたる石油ショック

を減量経営と省エネ投資、エネルギー代替投資などで乗り切り、競争力も回復していった。さらに、IC、LSI等のマイクロエレクトロニクス革命に先行し、世界に冠たる技術大国の地位を築いていった。

輸出の急増により經常収支は五十五年の赤字から六十年には黒字に、そして黒字が累積していく。六十二年には一人当たりGNP、外貨準備高ともに世界一となり、経済大国と言われるまでになつた。

こうしたなかで、対米、対ECとの貿易摩擦が深刻化し、その対応に苦慮した。

昭和五十五年に実施された国勢調査で六十五歳以上の人口が、十%を超える、老齢化が一段と進んだ。

家計の手助けから次第に婦人のパートタイムや臨時雇用が増大し、女性の社会進出が目立ち、共稼ぎ族の増大は家庭の所得を増加させ家庭生活も新しい方向に動きはじめた。

昭和50年（戦後最大の不況からのゆるやかな回復）

高学歴社会

ベトナム戦争の終結
ホーチミン4月30日にサイゴンを制圧

国鉄新幹線が岡山―博多間が開通

3月、岡山―博多間が直通になり、鉄道の新しい時代を迎えた

沖縄海洋博の開催
7月から翌年1月まで沖縄海洋博開催
入場者数三四八万人

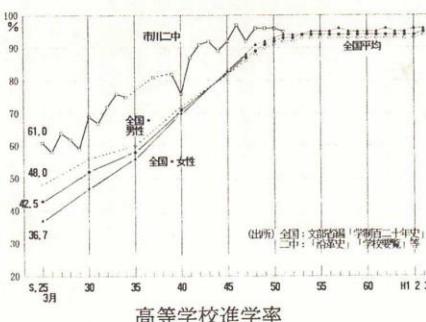
第一次石油ショック後の厳しい不況を背景に生活防衛意識も強まつた。こうした中でも教育熱は高く、昭和四十九年に高校進学率が九十%を超え、大学生が二百万人を突破するなど、教育の大衆化が促進され、高学歴社会へ移行して行った。

このような経済社会の発展変化や教育の大衆化が教育の多様化を要請し、四十年代後半から一連の教育改革が検討され実施に移された。昭和四十六年の中央教育審議会の答申（121ページ参照）は、その後の教育改革の指針となつた。以後実施された初等中等教育についての主要な事項は、教育内容の精選、小中高校の一貫等を趣旨とする学習指導要領の改定（五十二、五十三年、キャッチフレーズ「ゆとりと充実」）、学級編成改善（四十九年以降）、養護学校義務制の実施（五十四年）等である。

五十年代後半、校内暴力、いじめ、登校拒否、非行など学校教育の荒廃といわれる問題も目立つてきた。教育問題が緊急の課題となり、五十九年、政府全体の責任で長期的展望に立った教育改革に取り組むため、総理大臣（中曾根康弘）の諮問機関として臨時教育審議会が設置された。内閣直属の審議会が設けられたのは戦後では教育刷新委員会（二十一年）以来のことであった。

高校入試

V 昭和五十年代



高等学校進学率

昭和四十九年度高校入試から採用された総合選抜制が僅か三年で単独選抜制への復帰と、目まぐるしく変わる高校受験制度に学校、生徒、PTAともに翻弄された時代である。
なお、二中では五十年五月から三年間、市川市教育委員会研究指定校として、進路指導の研究が進められた。

総合選抜制（学校群制度）

日本赤軍のクアラルンプール事件
クアラルンプールのアメリカ・スウェーデン両大使館を占拠、大使館員を人質に、赤軍派など7人の釈放を要求。日本政府は要求を受け入れた。「超法規」の解釈をめぐって論議が紛糾

男女同権問題の論議活発化

2月、「女子の定年制差別は無効」として、東京高裁が解雇無効の判決
10月、即席ラーメンの「コマーシャル「わたしを作る人、ぼく食べる人」が女性差別と批判され、放映中止、男女同権問題が論議された

抜制に代わり導入された。対象になったのは千葉から市川にいたる京葉地区の全日制普通科。学校群は第一（千葉、千葉女子、千葉東、千葉南、千葉市立）、第二（船橋、葉園台、船橋東、八千代、市立船橋、市立習志野）、第三（国府台、国分、鎌ヶ谷）学校群。群の定員は各校募集人員の合計。各校の第一志望のうち成績順に二十%（五十一年は三十%）はそのまま優先入学を認めた。

しかし、三年間実施のあと、以下の様な理由で五十年度で廃止されることになった。
①支持者が少なかった（アンケート）。
②一部の生徒のための制度となつていて。
③学校群高校と単独校との間に新たな格差。
④予想以上の高校新設で学校群の編成が難しくなる。
⑤交通条件格差。

単独選抜制

高校入試制度は昭和五十二年度に、総合選抜制から単独選抜制に戻った。単独選抜制への復帰を前に、鈴木昌男校長から「進路指導の課題―総合選抜制から単独選抜制へ」の説明があり、また、PT

昭和51年（ロッキード事件による政治混乱で景気もブレーク）

米上院外交委員会、ロッキード社の日本政財界への多額の不法工作資金（金券表、田中角栄前首相をはじめ灰色高官が逮捕され、政界を揺るがした）

戦後生まれが総人口の半数以上に

Aや生徒も「特集 子どもは親は」と題し、それぞれの立場から意見を述べ合っている（「PTA会報」55号 昭和51年11月）。さらに「進学・就職—新しい道を行くために—」との座談会を行い、「五

十二年度から改正される県立高等学校入学試験について、学校群制度廃止にいたる経過と、その後の諸問題をお互いに不安に思って過ごしている状態です。学校側から校長先生と、進路指導担当の大坂先生を迎えて、親の立場、教師の立場から子供を考える、貴重な話し合いとなりました」と結んでいる（「PTA会報」58号 昭和52年12月）。生徒も親も不安と戸惑いを隠せない様子がうかがえる。

単独選抜制に戻り、高校選択は生徒一人一人の意思に任せることになり、改めて自分の目で高校を確かめるため市内の県立高等学校（国分、国府台、市川東、行徳、市川工業、葛南工業）の訪問を開始する。また、六十年代に入るとPTA学校委員の主催で高校巡りが実施された（48ページ 高校の図参照）。

単独選抜制とは、出願者は志望する学校に出願、それぞれの高校単位に合格者を決めるものであり、長い間、人々に慣れ親しまれた制度である。学校選択の自由が保証され、総合選抜制にあった割り振り配分という不安感もなくなり、生徒のモラルも高まる。通学上の交通条件特定も解消されるなど、長所と言われる。

しかし、今回の単独制への復帰は全面的に元に戻ったわけではない。学区は全県一区ではなく地域割（隣接地を含む）となり（職業高校は全県一区）、県内は十二学区に分かれ、市川は松戸、浦安とともに第三学区に属する。そして、市川で受験出来るのは十一の市町村地域の高校である。市川市内の県立高校は六校。国分（創立昭和三十九年）、国府台（同二十三年）、市川

東（同五十二年）、行徳（同四十九年）、市川工業（同二十三年）、葛南工業高校（同四十八年、市川工業高校定期制が独立、四年制）。入学の可否は、内申書と学力検査（入試）によるが、より内申書を重視。また、受験資格は卒業中学生が基準（住居ではない）で寄付は認めない。都立高校の受験は出来ない。

市外からの生徒が殺到し市内の生徒が締め出されていることや生徒数の増加、進学希望者の増加に対する受入態勢の問題は、幕張に高等学校群団地が出来る予定はあるが、市川市に県立高校、市立高校の設置は当分ない。県立高校の学級数の増加を待つのみ、との説明であった。（「PTA会報」55号 昭和51年11月、58号 昭和52年12月、第61号 昭和53年6月）

V 昭和五十年代

昭和52年（ミニリセッションの到来）

塾問題、偏差値など

受験戦争の激化のなかで、塾問題や偏差値についての議論が高まつた。

昭和五十年、小学生の六十二%、中学生の四十六%が塾に通っていると報告されている。二中でも塾通いの調査を行い、「どうなる塾問題」としてまとめられている（「PTA会報」52号）。また偏差値については「『偏差値』問答」（「PTA会報」53号）としてとり上げられ、「現代の必要悪か」と論じられている。

しかし、その弊害も目立つており、業者テストは昭和五十二年度から縮小する方向であるという（從来の年間二十回から五回へ）、偏差値もゆくゆくはなくなるのではないかとの見解もでている（平成六年度入試から業者テスト廃止）。

どうなる塾問題

一本校でも五十%が通う（概要）

先生は「学習塾に行っている人数の多い少いは、その学校的学習成績とは何の関係もない。学校での勉強と、家庭での予習復習で充分足りる。学習塾を通う学生が少いということはむしろ喜ばしい現象である。要はやる気があるかどうかである」とし、二中生徒のやる気を評価している。

（「PTA会報」52号 昭和50年7月）

『偏差値』問答 — 現代の必要悪か —

東京都では、塾通いの中学生がこの六年間に倍増したという（東京都公立中学校長会調査）。二中でははどうだろうか。最近の調査では全校生徒八百八十四名の約五十%、四百四十五名が何らかの塾に通っている。しかし、この中にはピアノ、珠算、舞踊、スポーツ等も含まれており、いわゆる学習塾は二百九十六名で三十三%となっている。一年生は三十二%、二年生は二十八・八%、三年生は三十八・六%。さすがに、三年生が一番高くなっている。市川市内平均（四十九年度調査）は一年生は三十七・二%、三年生は四十四・七%となっており、二中の通塾は平均より大幅に低くなっている。

☆国民の90%が中流意識

9月、日本赤軍が日航機をハイジャック、拘留中の日本赤軍の釈放と身代金を要求、政府は受け入れ、犯人はアルジェリア政府に投降

日本赤軍のハイジャック事件
世界各国20カ国で漁業専管水域を実施、わが国も領海法・漁業水域暫定措置法公布。漁業国日本は水産物輸入国へ転換した

しうね。

答 高校進学率がぐんと伸びた。ということは成績

脱偏差値入試元年（平成六年度入試）
埼玉県では平成四年、県内公立中学校
に業者テストの結果の提示を禁止する
指導を行い、話題を投じた。さらに、
同年十一月、時の鳩山文相の発言を機
に文部省も業者テストの禁止の方向に
動いた。平成五年二月（一九九三年）
は「脱偏差値入試元年」として大き
な関心を集めめた。しかし、翌七年の入
試を通じてさほどの混乱ではなく、中學
校での偏差値抜きの進路指導はようや
く定着してきた。

問 偏差値って何ですか。
答 要するに、統計学によって算出された数値な
ですが、あるテストを一万人の生徒が受けたとします。
その集団の平均値を五〇に換算します。そして、標準
偏差を単位とした尺度で、その上下の擺れ幅を見るわ
けです。そうしますと、一万人の受験者の中で、自分
は何番くらいのところにいるのかが分かるわけです。
単なる点数の比較ですと、平均点六〇点の時の七〇点
と、平均点七〇点のときの七〇点とのちがいが分らな
いわけです。

問 偏差値がこんなに広範に利用されるようになつ
たのはなぜですか。
答 上下差も大幅に拡がったということです。この多様
な成績差の生徒を合格させるためには、自校内だけの
成績順位を資料にしたぐらいではだめなんですね。受
験者は当然ながらいろいろな学校から集まつてくるわ
けですから。従つて広範囲にわたつてテストを実施す
るいわゆるテスト業者の結果が、大変参考になるとい
うわけです。しかし、進路指導というものは、受験校の
あり分け作業では決してありませんから、偏差値絶対
ではありません。コンピュータの普及による現代の必
要悪というところでしうねか。

〔PTA会報〕53号 昭和51年3月)

V 昭和五十年代



PTA会報特集



147

昭和53年（構造転換による本格的な景気回復）

円高ドル安時代の到来
1月 円相場が1ドル=27・9円の戦
後最高値を記録、10月に15・5円、年
末は15・1円、わが国の経済は国際的
に新局面を迎えた。

新学区

市川市では人口の急増に対処し、昭和五十年代に六つの中学校が新設された。五十四年四月、下貝塚、高谷、福栄の三校、五十五年は東国分、五十七年は大洲、塩浜の二校である。このうち五十五年四月に設立された東国分中学（東国分三丁目五一）が二中学区と重なり、従来、二中の学区だった国分一、三、六、七丁目、稻越町が新設校学区となつた。

五十一年度から急増していた二中の生徒数は、五十四年度には千二百十一名、クラス数も二十九に達した。このため五十三、五十四年とプレハブ校舎を設置せざるを得なかつた。しかし、この新学区により五十五年度は九百九十名に減少、クラス数も二十四と五クラス減少した。

これにより、生徒たちは続いていた窮屈な状態から解放され、より行き届いた教育が期待された。

完全単独給食

昭和五十二年一月、待ちに待つた二中・完全単独給食が実施された。小学校との親子方式が多いなか単独方式でのスタートとなつた。五十九月に建設が始められた給食調理室（二八八平方メートル）も東側校舎とスタンドとの間に真新しい姿を現し、栄養士、調理師、調理員の六名を迎え、生徒会も改めて給食委員会を設置するなど準備は万端整つた。これについては導入前の五十一年秋から導入後も「PTA会報」に何度も特集され、関心の強さがうかがえる。

新東京国際空港の開港

新東京国際空港（成田空港）は、反対派と機動隊が大規模な激突を繰り返したが、5月20日開港にこぎつけた

世界一の長寿国へ
日本人の平均寿命、男72・69歳、女77・95歳、スウェーデンを抜いて世界のトップとなつた

学校給食三学期から（概要）
当初、設備の関係でセンター方式という話もあったが、校長先生の尽力で単独方式が実現した。そのため、五一年九月から校庭の一隅に給食室建設が始められた。二中独自の献立、温かい食事が期待できる。しかし、賛否両論のなかでのスタートであり、皆で意見を出し合い、協力しながらより良い方向への努力が期待される。

カロリーは男子一日必要摂取量二千六百カロリーのうちの約七百カロリー。
毎食、牛乳一本、パン三枚、それに副食。

給食費は一千八百円（内、市補助百二十円）個人負担二千六百八十円。

（因みに平成七年 四千五百五十円）

（「PTA会報」55号 昭和51年11月）

開始後十日、給食室を訪ねる（概要）

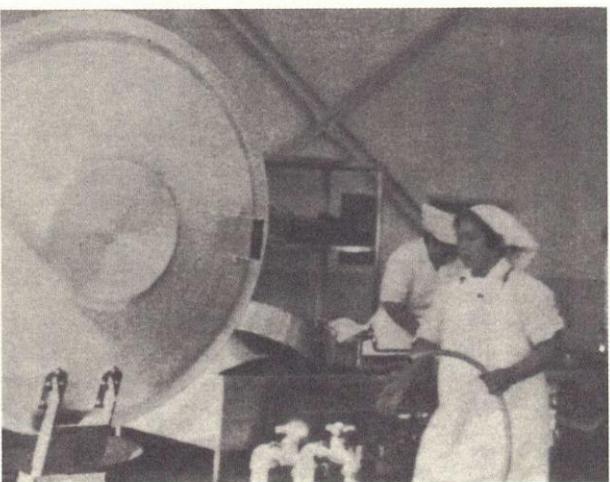
話題の給食室は、校門を入ってスタンンドの終わる左側、近代的な給食室がある。設備の進歩は目をみはるものがある。大きなお釜が円盤のように並んでいる。

お釜は安全に少ない労力で操作できるように回転式になつていて、

スタッフは栄養士さん一名、調理師さん五名。六名で九百人以上の昼食を調理する。

八時二十分、九百八名分の作業開始。十一時四十五分、配膳完了。午後、戻った食器の洗浄、後片付けで、作業終了は十五時三十分ごろ。

土曜日は丁寧に掃除、マーガリンなど一週間分をグラスごとに数えて分ける。



V 昭和五十年代

好きなメニュー・嫌いなメニュー Best 5

好き	嫌い
1 カレーライス	サラダ
2 チリーミンチ	印度風
3 ごはん類	魚類
4 シチュー類	煮もの
5 スパゲッティ類	パンクルースト

一生懸命アンケートから



白百合学級の授業風景（昭和55年）

昭和54年（第二次石油ショック）

第二次の石油ショックの到来

1月、国際石油資本が対日原油供給削減を通告。しかし、いち早く石油節約運動を実施、実質GNPの成長力が高く、第一次ほどの混乱はなかった

ECの対日戦略問題

ECの対日戦略基本文書の中に辛辣な日本人観が含まれ、わが国に大きな波紋を投げかけた。いわく「西欧人から見れば、ウサギ小屋に毛の生えたような家に住む働き中毒の国」

めに手を掛けるといつても九百人を少人数で調理するのですから大変な仕事。質量とともに他校よりも多くなっている。

給食室から校舎までの連絡路が完成していないのでワゴンが使えず、両手に二十キログラムの食缶を運搬するのが大変。（「PTA会報」56号 昭和52年3月）

スタートから十ヶ月、生徒の反応

先生と生徒が一丸となって始まつた待望の給食は、好評のうちに軌道に乗ってきた。

他校に比べると、食器へのいたずらやトラブルもなく、

く、後片付け良好。ゴミの分別整理も好ましい結果が得られている。

給食を配る間の八分間、全校に放送が流れ、一斉に目の体操が始まる。静かに終わったところで、給食開始。

栄養士さんは、小学生と比べ中学生の発育量は目ざましく食べても食べてもお腹がすぐ時期でもあり、好き嫌いなく何でも食べるたくましさが欲しいと言つてゐる。また、殊に身長の伸びる時期なのでカルシウムの摂取が大切。牛乳は是非とも毎日飲むようにとのこと。（「PTA会報」58号 昭和52年12月）

特殊学級開設—小井川学級（現白百合学級）

昭和四十六年の中央教育審議会答申の中の「これまで延期されていた養護学校に於ける義務教育を実施に移す」との提言を受け、昭和四十七年度を初年度とする特殊教育拡充計画が策定されるとともに、五十四年度から養護学校が義務教育になる事が確定した。同時に、同拡充計画では特殊学級についても増設が促されていた。

こうした状況の下で二中でも特殊学級が開設されることになる。鈴木昌男校長は、その意義を「義務教育の機会均等」という基本的教育理念を進めてゆく」と強調している。

五十二年四月、二中隣設の養護学校から七名が移り、小井川先生の赴任を得て小井川学級（五十四年白百合学級と改称）としてスタートした。その後、西側木造校舎の一部を特殊学級教室（二教室）に改修。二年目の五十三年には十五名、先生も二人の新しい先生を迎えた。以後、毎年二

昭和55年（所得の減少で景気調整局面）

高金利時代
3月 日銀が公定歩合を引き上げ9・0%という高金利となり、第一次石油ショック時と同じ、史上最高の水準に

十名前後の生徒が二中で勉強を共にして、開設二十一年を迎える平成九年まで、百名以上の生徒たちが卒立っている。

開設当時、市川市内で特殊学級のあるのは、二中、五中、七中の三校だけであった（平成七年現在は一中、六中が加わり五校）。

当時、小井川先生は抱負と学級の心細い状況を次の様に情熱を込めて記している。

モスクワオリンピックの不参加決定
4月政府はソ連のアフガニスタン侵攻に反対してモスクワオリンピック大会の不参加を決定。JOC（Japan Olympic Committee）も同調

昭和56年（予想外に長引いた在庫調整、自動車の対米輸出の自主規制）

神戸ポートアイランド展の開催
神戸市主催「神戸ポートアイランド展」（3月～9月）は、入場者が1千60万人大盛況で地方博の幕開けに

昭和56年（予想外に長引いた在庫調整、自動車の対米輸出の自主規制）

神戸ポートアイランド展の開催
神戸市主催「神戸ポートアイランド展」（3月～9月）は、入場者が1千60万人大盛況で地方博の幕開けに

空き缶回収開始
京都市議会は全国に先駆け「空き缶回収条例」を成立、全国的な広がりへ

福井謙一がノーベル賞受賞
京大工学部の福井謙一教授がノーベル化学賞を受賞

V 昭和五十年代

昭和56年（予想外に長引いた在庫調整、自動車の対米輸出の自主規制）

神戸ポートアイランド展の開催
神戸市主催「神戸ポートアイランド展」（3月～9月）は、入場者が1千60万人大盛況で地方博の幕開けに

空き缶回収開始
京都市議会は全国に先駆け「空き缶回収条例」を成立、全国的な広がりへ

福井謙一がノーベル賞受賞
京大工学部の福井謙一教授がノーベル化学賞を受賞

理解の中で育てる芽 小井川英和
開校一年目の課題は、なんといっても二中のなかにしっかりと芽を出すことであった。
しかし、芽を出すためには、土壤がたっぷりと栄養を含み陽の光と水を摂取しなければならない。それも多すぎては、消化不良をおこしてしまうから、生育に必要な量とその中味が問題である。学級と子供たちが、二中のなかで、しっかりと芽を出していく為の環境（条件）づくりであり、その為の土壤づくりが必要であった。子どもたちを種にたとえるならば、どこに播かれても芽を出す種ではなく、又どこに落ちても芽を出す種でもない。よく耕された肥料の入った土壤でなければ芽を出すことはできない。そして、耕し肥料を入れる作業が、地域ぐるみ学校ぐるみの共同作業でなければ生命力の強い芽を育てることはできない。このことは障害をうけている子どもたちにも言えることであろうと思う。

開校一年目をふりかえって、どこまで土壤づくりが出来たであろうか。開校当初はまさに土さがしといえ

る時期であった。入学はしたものの図書館の仮住まいを余儀なくされ、学級に配置された机と椅子だけであった。子どもたちから「先生、早く僕達の教室が欲しい」という要求が出されたたびに「これが文教都市（障害児教育においても）を宣言している市川市の実態か」と腹が立った。

今は古い木造教室ではあるが我が家を得て、家財道具も少しづつ増えてきた。二中という土壤を耕す仕事はまず担任を先頭に学級（父母も含め）が積極的に先生方や他学級の子どもたち、父母、とかわり合いをもつことであるが、この事については「はじつこの参加」で終わってしまった。特別活動や一部の授業と部活動に参加したが、「まん中の参加」がなかった。担任の消極さを反省すると共に二年目は、特別活動や、教科の授業づくり、生徒会活動、そしてPTA活動等の「共同作業」を通して「知り合うことから」わかり合おうかかわりへ発展させていきたいと思う。

（「PTA会報」59号 昭和53年3月）



小井川学級生のキャンプ風景（昭和53年）

11年目の五十三年夏、鈴木校長は、小井川学級の生徒たちと相模湖畔ユースホステルでの合宿を行し二十四時間生活を共にした。小井川先生を中心とした島袋、佐治先生達の周到なプランで、行事の運営も円滑に行われた。鈴木校長は、この有意義な行事を振り返りながら「ふれあい」と題し、特殊学級への取り組みを次のように語っている。

ふれあい——小井川学級生とのキャンプから——

鈴木昌男

（略）義務教育段階においては、特に行動と知識は深く結びついているので技能をゆるがせにして理解だけ深めようとしても、それは表面だけの知識に終わってしまう事が多いと考える。行為を伴って理解させたことは必ず行為に定着させていく努力がくりかえされてはじめて生徒の健全な発達が期待されるものと思う。このような目標をもつて特殊教育を考えてきた。（略）（略）今後も特殊教育の研究に精進したいと考えている。

この僅かな時間帯であったが多くの生徒との対話を得

（「PTA会報」61号 昭和53年11月）



もう一つの運動会

昭和五十六年度から新教育課程がはじまり、その目玉は「ゆとりと充実」である。具体的な変化としては授業時間が減ることと教科書が薄くなる（内容の精選）ことである。標準指導時間数は週三十四時間から三十時間へ、ただし、四時間は各学校の自由裁量時間いわゆるゆとりの時間となる。

ゆとり教育

昭和五十六年度から新教育課程がはじまり、その目玉は「ゆとりと充実」である。具体的な変化としては授業時間が減ることと教科書が薄くなる（内容の精選）ことである。標準指導時間数は週三十四時間から三十時間へ、ただし、四時間は各学校の自由裁量時間いわゆるゆとりの時間となる。

昭和57年（世界同時不況）

貿易摩擦問題深刻化
対米及び対E.C.貿易は過去最高の黒字
になり、貿易摩擦問題深刻化

それに先立ち高山真木男校長は次の様に述べている。

「(略)、週日課計画も以前よりだいぶゆとりのあるものとなるでしょう。しかし、こうした時間的量的なゆとりだけでは不充分で、「ゆとりある授業」を展開しなければならないと考えています。

即ち、よくわかる楽しい授業、丁寧で積み残し落ちこぼれの出ない授業、伸び伸びと主体的に追求する学習が展開され質的にも精神的にもゆとりあるものとしなければならないと考えます。しかし、

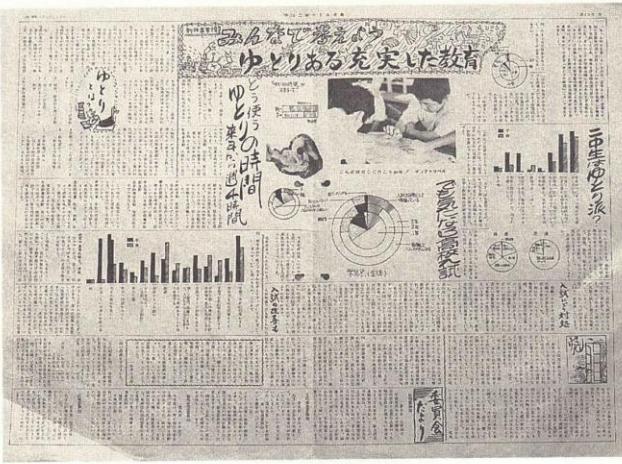
このことは言うは易く行うは難しいことで、新教育課程へ移行したら早速、「ゆとりと充実」が実現されるといった安直なものではなく、改善を重ねていくことが必要であり、われわれ教師にとってはゆとりどころか苦業が待っているといえそうです」。

〔PTA会報〕63号 昭和54年12月)

このため、二中でもプロジェクトチームを作つてゆとり時間に対する取り組みの検討を始めた。例えば、移行的措置として既に五十五年度から授業を一時間減らしクラブ活動を四十五分から七十分に延長するなどが試みられている。その他、生徒会活動への全員参加と充実、栽培や手づくりなど生産的活動、郷土の研究、学力の低い生徒への指導や相談活動、地域社会や学校の美化など社会奉仕活動などが挙げられる。

二中の生徒の大部分は学習と教科外の活動を両立させ健全な学生生活を送つていているよう見受けられるが、ゆとりを求める声も強い。また、高校入試を気にしている点は人後に落ちない。父兄も受験万能主義に疑問を持ちつつも、現実に入試がある以上、学力低下につながるのではないかとの危惧は捨てきれないようだ。そして、入試改善への願望が強い。

V 昭和五十年代



PTA会報 (昭和55年)

新幹線時代の到来

6月 東北新幹線（大宮→盛岡）
11月 上越新幹線（大宮→新潟）が開業、本格的な新幹線時代到来

ゆとりと充実

永年、日本の教育に深い危惧を抱き、積極的に問題指摘や改善の提言を行ってきた永井道雄氏が文部大臣就任の際、ゆとり教育への転換を明らかにし、その中で

①大学入試の改善 ②小中高校教育に自由で充実した教育の回復 ③高等教育の格差是正と充実 ④学歴偏重の風潮の打破

の四項目が連動する必要を強調した。この流れの中で、

四十八年十一月の教育課程審議会に「小学校・中学校

及び高等学校の教育課程の改善について」諮問を行い、

五十二年七月に小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領の全面改訂が告示され、小学校は五十五年度から、中学校は五十六年度からそれぞれ全面実施された。

この教育課程の改訂は、学校生活における「ゆとりと充実」の実現を目指すものであった。それまでの教育課程が化学・産業・文化などの進展に対応し教育内容の充実を図り、国際的にも高い学力水準を達成させ

たが、反面、学習内容の量的な増大を来たし、また、

程度も高くなりすぎているとの指摘を招いた。このような状況を改善するために、知識の伝達に偏りがちな状況を改め、自ら考え主体的に判断し行動できる児童生徒の育成を目指したものである。

「ゆとりと充実」というキャッチフレーズで有名になったこの改訂の最大のポイントは、各教科の指導内容を大幅に精選し、思い切った授業時数の削減を行つたことであった。

中学校の授業時数は全年とも年間千五十時間（週三十時間）が標準とされ、従前より第一・二学年で百四十単位時間（週四時間）、第三学年で百五単位時間（週三時間）削減された。この削減時間は在校時間は従前通りにし、学校の教育活動にゆとりを持つるようにするとともに、地域や学校の実態に応じて創意を生かした教育活動が活発に展開できるようにすることを狙いとしたものである。

（文部省『学制百二十年史』平成4年11月ほか）

市川市の姉妹都市
平成三年、日本での姉妹都市は四十四ヶ国、七百五十七組となつてゐる。市川市は三都市と締結している。昭和三十七年にアメリカ・カリフォルニア州のガーディナ市。昭和五十六年に中国・四川省の楽山市。平成元年にインドネシアのメダン市。楽山市との関係は、日本との架け橋として活躍した郭沫若氏が昭和三年から十二年まで市川須和田で過ごしたこと、郭沫若氏の故郷が楽山市であったため市川市動植物園の人気者レッサーバンダも楽山市からの贈り物である。

国際交流

昭和五十年代から、国際化の流れに副い、市川市の教育現場でも教員の海外派遣や海外の学校との交流も始まった。当初は市川市の姉妹、友好都市との親善、交流を中心としたものが多かつたが、平成三年度から生徒交流が本格化し、当校から毎年一名がニュージーランドに派遣されている。また、近年は在日大使館訪問なども始まつた。

樂山市使節団の二中來訪

五十六年十月、市川市姉妹都市の中国・楽山市（四川省）使節団（市長以下六名）が突然、二中を訪れるというハプニングがあった。学校長、先生方、PTA会長及び役員が出迎え、教育制度、学校の内容について質疑応答。その後の授業参観では新装なった校内を見学。特に白百合学級について興味を持たれた。突然の訪問でかえってお互いに飾らずに接せられ大変有意義で友好が深まった。

海外交流

急速に進展する国際化に対する教育の

昭和五十九年度より姉妹都市ガーディナに、これまで隔年で五回にわたり市内小・中学校教員を計十五名派遣した。

度からスタートし、それぞれ、学校訪問、教育施設視察等を通じて、教育関係者および児童・生徒との交流を深め、また、ホームステイによりお互いの文化・生活・習慣を直接体験しあい、両市の国際理解教育に役立ってきた。

計十六名の中学生と引率教員四名が、ノースシニア市
のグレンフィールド・カレッジを約二週間学校訪問し、
授業等に参加し、お互いの交流を深めている。また、
ホームステイを通じて直接異文化を体験し、グローバー
ルな目で世界を見て、国際人としての感覚を養う上で
大きな成果を得ている。

受入れは隔年で実施、市内の中学校に分散して受け
入れ、学校訪問、ホームステイ等を通じて、日本の学
校生活や伝統、文化、習慣に触れるとともに、お互い
の友情、交流を深める上で大変貢献している。

二中では古賀彩（平成四年）、新井一人（五年）、大
竹光徳（六年）、秋元ゆかり（七年）、小椋唯（八年）
の五名がニュージーランドに派遣されている。



中国楽山市使節団二中を訪問

V 昭和五十年代



ザンビア大使館訪問（平成8年）

その意図はお互いの文化を理解し、多様な考え方や、広い視野を養うことである。生徒たちは緊張したけれど、全体的に好評だった。ある生徒は「特に、日本との違いを感じたのは学校制度のことで、身近かな事が外国への興味につながり、おもしろかった」と感想を述べている。

中学生藝術文化教室

文化庁では全国的に校内暴力事件が頻発した昭和五十九年、荒れる学校に文化事業を、と「中学校芸術鑑賞教室」を企画した。

室」をスタートさせた。文化庁外郭団体の日本青少年文化センターの助成を得て市内全ての中学校を対象にしての発足だった。コリングス・ボーカル・アンサンブルをはじめ、演劇、音楽、狂言などの著名なグループが毎年市内の学校を訪れ活動しており、「いかかわ・心の教育」に寄与している。

二中でも時には体育館時には市川市文化会館を舞台に多くの演奏会が行われ、情操教育に役立つ

4月 東京デズニーランド開園、新しいレジャー時代のさきがけとなり、テーマパークブームが始まる

オフィス革命時代に
「パソコン」や「ワープロ」が普及、
ビジネス技術革新と情報化時代へ突入

☆健康食ブーム

生徒会・部活動など

購買委員会の設立

昭和59年（日米間の貿易不均衡拡大、日経平均株価が1万円台）

グリコ事件発生

3月 江崎グリコの社長が自宅から連れ出され、チョコレートに青酸ソーダを入れた脅迫事件が発生

国鉄の第三セクター化開始

国鉄の赤字線を第三セクターが引き受け經營する初の試み「三陸鉄道」が営業開始

ロサンゼルスオリンピック開催
8月 米ロサンゼルスオリンピック開催。ソ連、東欧諸国不参加

当時、生徒会活動はやや盛り上がりを欠いていたのだろうか、田中首相の「日本列島改造論」に刺激されたのか、昭和四十七年頃、生徒会活動の活性化を目指した動きがあり、会則の改定と購買委員会の設立等を盛り込んだ「須和田が丘改修」が提案された（『すわだ』八号）。

その際の目玉で、生徒会の長年の懸案だった購買委員会については五十年五月、玄関脇の旧事務室を借りてやっと発足のはこびとなつた。

購買委員会の設立は公約として掲げられたものの、当初は本部活動の一部として時々小規模な試し売りをする程度だった。石油ショック後のインフレの最中でもあり、その後も思うように進まなかつた。しかし、五十年五月、新校舎の完成で玄関脇の旧事務室が購買室に割当てられ場所が確保されたことで急速に進展した。公約から二年を経過し五十年度後期にやっと生徒会の専門委員会として購買委員会が正式に発足することとなつた。

発足当初は何から何までゼロからのスタートで、委員集め、仕事の分担、グループづくり、そして何よりも仕入れ、販売といった仕事の手順を修得するのが大変だった。また、帳簿とお金が合わないなどの問題も起こつた。しかし、だんだん慣れてくるうちにこうした問題も解消していった。しばらくすると、「購買委員会ってなんだろう」「スーパーバーの方が安いんじゃない」と言う人も出てきた。しかし、忘れ物などして買入くる人、購買部を頼りにしている人も沢山おり、不十分な点は多かつたが、皆で協力して便利で利用しやすい購買室に育つて行つた。

現在も玄関正面の小部屋で生徒の役に立つ購買室として活動を続けている。

朝 八時～八時二十五分、昼休みの間、学校に必要な学用品などを売っている。

クラブ活動の多様化

昭和四十八年度、活動していたクラブとしては「学校要覧」によれば次の様になつてゐる。

文化クラブ—油絵・陶芸、演劇、茶華道、書道、手芸、園芸、囲碁、将棋、ブラスバンド、音楽アンサンブル、英文学の十一。

体育クラブ—バレーボール、柔道、バドミントン、創作ダンス、ハンドボール、バスケットボール

の六。

しかし、五十年代に入ると、こうした、従来からあつたクラブの他に新たなクラブが雨後の竹の子のように登場してくる。殊に文化系クラブで顕著であつた。生徒たちのニーズに合わせたクラブ活動の多様化なのであらうか。例を挙げると次の様なものがある。

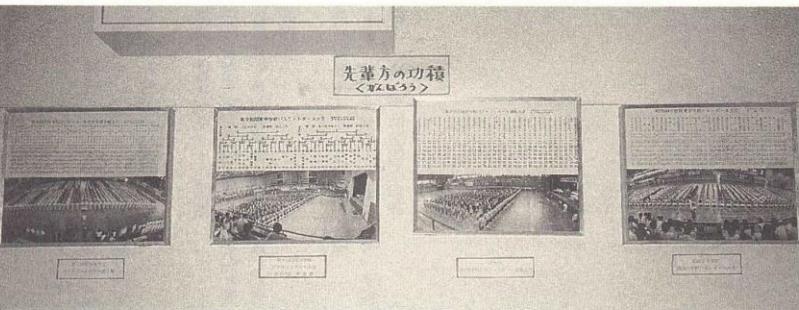
五十年 マスコミ研究会、計算尺・計量ク、落語研究ク、鉄道研究クなど。

五十一年 数学パズルク、室内ゲーム研究ク、読書クなど。

五十二年 歌劇研究ク、木彫ク、詩歌研究ク、郷土研究ク、野外レクリエーションク、海外交通ク、コード鑑賞ク、いちご絵本ク、技術クなど。

五十三年 ミステリー愛好ク、リコーダーク、七宝焼ク、英語の歌ク、折り紙クなど。

沢山あるクラブの個々の活動状況は紙数の関係で割愛するが、主な活躍を挙げる。





七宝焼



ミスティーラ好会

より表彰された。

男子バレー部は六月二十四日、中学校全国大会県予選で優勝し、第九回全日本男子バレーボール中学生選手権（八月十六日～十八日、於：駒沢室内球技場、他）へ。全国大会で鷹巣中に破れた。

男子バスケット部は全国大会県予選で小見川中に破れ惜しくも準優勝となつたものの、関東予選に出場、これを突破した。八月二十日～二十三日、松江市（於：松江市総合体育馆、他）で行われた第九回全国中学校バスケット選抜大会でベスト8となつた。

サッカー部は県大会決勝へ進出。関東大会への進出なるが大会が中止となり、神奈川県招待試合に

出場。

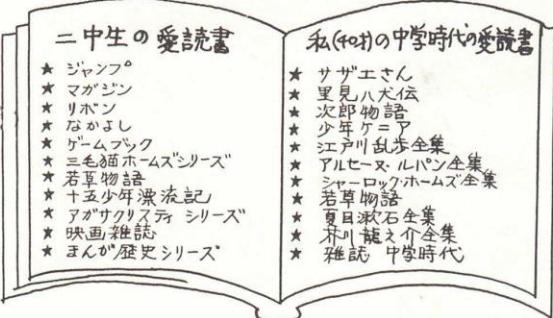
水泳では佐々木みちよさんの活躍が凄い。一年（五十四年）で第一回全国ジュニアオリンピック春季水泳大会で全国一位（平泳ぎ百メートル十一～十二歳の部一分十九秒三）。県議会表彰と県教育長より賞状と盾をいただく。二年（五十五年）で市民大会 百メートル自由形優勝。県大会 百メートル平泳ぎ二位（大会新）。全国百メートル平泳ぎ四位。三年（五十六年）で全日本中学生水泳大会三位となる。

- ・五十一年、バスケット部、県大会で堂々三位。準決勝に進み柏市土中^{つち}と対戦破れ三位に止まる。
- ・五十二年、事務の丸山加津恵さん青森国体で百メートルで五位入賞（十二秒六五）。
- ・五十三年、サッカー県大会三位入賞、テニス県大会三位入賞など。



第9回全国中学校バスケットボール大会





吹奏楽部 五十四年八月五日、第一回サマーコンサート開催。五十五年、県吹奏楽コンクール 第一部 特別優勝。五十六年、県吹奏楽コンクール 優勝

文化部・その他

五十五年、サッカー部 県選抜大会、県サッカー大会優勝、県中学生サッカー大会準優勝。

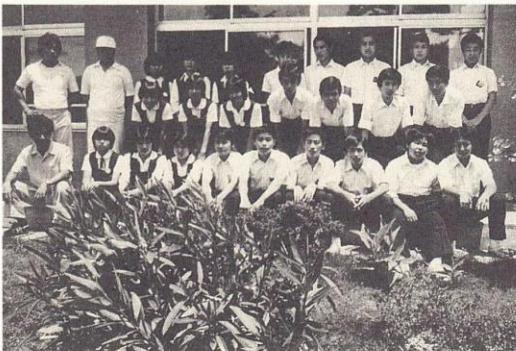
五十九年、市大会 陸上競技総合優勝、テニス(ダブルス)優勝、バスケット女子優勝(七年連続)。

一月、市民駅伝大会・中学の部優勝。

勉強会、その他

五十一一年八月、校外生活委員会

「二中ブロック会議」開催。市補導センター所長の弘田先生、主事の朝蔭先生、補導委員の出席のもと非行



園芸



まんが
PTA

校外生活補導
昭和五十年代中頃、核家族化や都市化の進展を背景として、社会的連帯意識が薄らぎ、家庭の教育力の低下も見られ、他方で、受験戦争の激化、低年齢化など、教育環境はさらにも悪化した。青少年非行が急増し、また小・

五十五年、市川市虫歯予防大会ボスター 優秀賞 二年六組 古瀬弘康

五十六年、全国児童生徒作品コンクール 特選 藤波謙司

五十九年、県美術造形研究会主催作品展 優秀賞 一年 石塚出穂、成田健

五十五年、市川市虫歯予防大会ボスター 優秀賞 二年六組 古瀬弘康

中学校でのいじめ、登校拒否、校内暴力等が社会的に大きな関心を呼び、荒れる教室といわれた。青少年非行は昭和二十五～二十六年、三十八～四十一年、五十六～六十三年の三つの山があるといわれ、五十年代後半は戦後第三のピークとなつた時代である。この頃横浜市内での浮浪者襲撃事件、戸塚ヨットスクールでの訓練生の死亡事件などが起つた。

二中でも校外パトロールや、市川市青少年補導センターと連携をとりながら、いろいろな勉強会を開き、親と先生と地域一体となつた努力が進められた。当時のPTA会長は次のように述べている。

お父さんの出番

石田雄一 私はつねづね、先生方も親も「中学校は高校進学のための予備校ではない」と言うことを、明確に認識する必要がある、と思っております。(中略)子供が正常な状態で育つには、成功経験と失敗経験が各五十%の比率がちょうど良いとされていますが(特に幼児期において)、この失敗経験をつませるには、お父さんの力が必要です。

幸い、二中にはもつかのところ、目立った非行問題はありません。だからといって、火種が無いわけではないでしよう。健全な家庭教育のために、非行予防のために、お父さんいまこそ、貴方の出番です。

(「PTA会報」70 昭和57年3月)

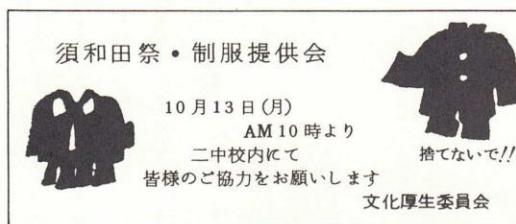
五十五年十一月、講演会「女子非行の現状と家庭での指導のあり方」千葉家裁・大沢和子調査官
防犯ブザー貸出し(部活その他で遅くなる生徒用)始まる。



PTA読書会 山岡先生の講演（昭和51年）



制服提供会（平成8年）



制服提供会

五十三年三月、制服提供会がはじめて行われた。以降、毎年、秋と卒業式後の二回、現在も続いている。まだ綺麗なのに小さくなったり、卒業で不要になつた制服や体操服、ブラウス、ワイシャツなどタンスで眠っているものを安い価格で融通しあうものである。

映画鑑賞会

五十七年一月、PTA校外活動の一端として映写会「ブリキの勲章」。生徒、先生、保護者が一体となって映画鑑賞。めったにない機会でお互いの立場からそれぞれに感慨があった。五十九年一月、「典子は今」。残雪のなか親子で映画を鑑賞。サリードマイドの宿命を背負う典子の生き方。期待されている母親像（母）、強いのり子さん（生徒）に感銘。

PTA読書会等

五十一年九月、PTA読書会発会記念講演。講師は山岡寛章先生。読書のすすめ「読書は、まず母親から」「気楽に読書を、たとえ一行でも」と。六十余名の参加を得る。以後読書会を続けることになる。五十二年十月、再び山岡先生を招いて読書会。

「読書は疑似体験である」とのお話。
中学生向け読書案内、「北極圏一万二千キロ」「兎の目」「ならぬ事はならぬもの」「石切山の人々」「お菓子放浪記」「青い目のバンチョウ」「わんぱく天国」。

五十六年十月、第二回「有害図書追放大会」（於 市川市民会館）。図書の自動販売機の撤去と収納図書内容の変更を目標とする。